

## 第1回「新スポーツ推進計画（仮称）」策定部会議事要旨

### 1 日 時

令和元年7月26日（金） 15：00～16：00

### 2 会 場

OKBふれあい会館第1棟4階「410」小会議室

### 3 出席委員（欠席委員1名・代理出席2名）

西本裕委員（委員長）、山本英弘委員（副委員長）、日下部光委員、亀山鉄也委員  
坪井朝啓委員、藤原謙介委員、林剛史委員、中川雅洋委員、浦野善裕委員

### 4 会議の形態

非公開

### 5 議 題

- (1) 「新スポーツ推進計画（仮称）」策定までの流れ及びスケジュールについて
- (2) 現行計画の達成度・評価、課題、方針について
- (3) 意見交換

### 6 議事要旨

- (1) 「新スポーツ推進計画（仮称）」策定までの流れ及びスケジュールについて  
(事務局)

- ・策定までの流れ及びスケジュールについて説明。

(委員長)

- ・長丁場になり月1回策定部会を開催することになる。

- (2) 現行計画の達成度・評価、課題、方針について

(事務局)

- ・各担当係へ現行計画の達成度・評価、課題、方針について説明及び作成依頼。
- ・客観的、批判的な視点で達成度・評価、課題を抽出していただきたい。

(委員長)

- ・各担当のところについて考えていただくが、本文から紐解いていただいて達成度・評価を出していただく。批判的・評価的な視点や、4年分の情報や数字などを活用して、達成度・評価を充実させてほしい。
- ・課題については、達成度・評価を受けて、良い点・問題点を挙げていただく。

今まで通りの考え方だと、これでよいと済んでしまいがちだが、ヒントとして、過去の計画・直前の計画との比較だけでなく、もっと広いスパンで、前の国体から今回の国体、次の国体という節目で考えると、国体後についても考える必要がある。前回の国体からの数字があればぜひ活用していただきたい。

- ・国体を2回開催したが、上手くいっていないところや、変わったところ、変わらなかったところがある。課題を考える際のヒントにしていだければと思う。
- ・昔の国体やオリンピックでは、女性アスリートは話題にならなかったが、今はトピックになっている。オリンピックでは女性アスリートの方がメダルを沢山獲っている。各競技だけでなく、学校、地域スポーツにおいても、女性にどう参加してもらうかという視点も入れると、課題解決のヒントになるのではないか。
- ・2020年東京オリンピックを招致できた要因の一つが、ドーピングコントロールのシステムが他国に比べて日本は非常に優秀である。岐阜県においても浸透させたい。JADAがいうスポーツ・インテグリティ＝スポーツの高潔性を、競技スポーツにおけるドーピングだけでなく、スポーツを含めた大事なことを、学校や地域にいかに広めることができるかが課題になる。考え方の中に入れていただくと、新しい課題が見つかるかもしれない。
- ・課題の出し方という点で何かあったらお願いしたい。

(事務局)

- ・広い視点、様々な角度からからお話しいただいた。
- ・縦割りという考え方・視点で考えるのではなく。他の部門にも入っていただき、問題提起していただければと思う。

(委員長)

- ・活発にご意見をいただき、他分野に石を投げ波風を立て、一緒にやらないかというような取り組みができれば良いと思っている。

(副委員長)

- ・地域イベントの充実として、朝日大学では、総合型地域スポーツクラブと大学がタイアップして、地域のスポーツフェスティバルを1年に1回（今年で10回目）行っている。大学というハードとソフト（学生）を持っているから実現するイベントである。このイベントをきっかけにスポーツ好きの子供をたくさん育てることができればいいと思う。
- ・岐阜県の十数大学を巻き込んで同じようなイベントができれば、場所・人があり、子どもも集まる。学生のためにもなり、地域の子どもたち、保護者も喜ぶ。教員にとってもインターンシップができる。面白い企画になるのでは

ないか。

(委員長)

- ・意見交換に入っているが、出席者の方全員から意見をいただきたい。

(施設整備係)

- ・方針で予算の裏付けまでは記載しなくてもよいか。

(委員長)

- ・それを言っているとほとんど何も始まらない。まずは大きな話で結構。
- ・ねんりんピックの取組はどうか。

(ねんりんピック)

- ・みなレク運動として、レク関係ということで参加している。ねんりんピック推進事務局を立ち上げ来年に向けて準備している。
- ・レクリエーションの推進について、全国レク大会が3年前にあった。その後みなレク運動を実施している。みなレク運動は、岐阜市が中心になって盛り上げてきた。岐阜市中心にならないように、これからは各圏域に、大会やイベントのようなもの企画して広めていけたらと思う。そのためには、レクリエーションの指導者派遣、推進リーダーの育成、レク推進団体の育成・認定制度などのテコ入れが必要と考えている。

(委員長)

- ・岐阜市とか特定の圏域だけでなく、広く（他の圏域）という話があったが、その点でやれそうだという係はないか。スポーツコミッションということについていかがか。

(スポーツ交流係)

- ・スポーツイベント、スポーツ合宿の誘致をすることにより、地域が脚光を浴びることが、スポーツ振興、地域振興に繋がり効果があると考えている。

(委員長)

- ・現行計画のどの柱に属するわけではなく、全てに関わっていると考えてよいか。

(スポーツ交流係)

- ・様々な分野から意見を聞きたい。

(委員長)

- ・オリンピック選手なども含めた世界各国からの合宿誘致を担当すると考えてよろしいか。

(スポーツ交流係)

- ・県有施設を利用した世界各国からの合宿誘致を実施している。

(委員長)

- ・競技スポーツの選手も地域のスポーツにも関わっていく、横の繋がりも必

要になるのではないか。

(事務局)

- ・スポーツコミッションは観光分野での位置づけにあたる。学生の合宿誘致・観光誘致に役立てる。スポーツイベントを観に来る、マラソンに参加するためにお客さんが来県する。岐阜県では合宿誘致場所を聖地化し、ボルダ―やグラナダのような、岐阜県に御嶽高地トレーニングエリアありというように、岐阜県の特徴を生かした取り組みがなされているが、批判的な意見もお願いしたい。

(委員長)

- ・競技スポーツとしてはいかがですか。

(競技スポーツ係)

- ・地域スポーツの延長線上に競技スポーツが繋がっている部分が多くある。
- ・競技会の開催がスポーツを始めるきっかけづくり、スポーツの習慣化に繋がるとは言い難いという検証がある。
- ・カヌー・ライフル射撃などのマイナー競技が岐阜県のお家芸競技。国体等の得点源である。
- ・補助金を活用して、カヌー競技など全国ジュニアスラローム大会を行っている。一競技者だけの恩恵であって、広く一般の誰でも親しみやすいとは違う。
- ・競技団体も独自財源でやっていけない部分がある。小さな競技団体だと財源もないので、財源を助けてもらえると競技力向上に繋がる。
- ・前回の東京オリンピック、前回の岐阜国体を経て、今回、次回という広い視野で考えてみらうだという委員の意見に、指導者養成や選手の県外流出について、上手くいった面もあるが、課題も残っていることがあると指摘いただいた。
- ・大きな大会の節目で（オリンピック・国体だけに限らず）それぞれの分野の方にも、これから訪れる節目の大会のことも考えていかなければいけない。

(体育健康課)

- ・学校教育法の中にある、学習指導要領に則った、体育授業の展開を充実させていく必要がある。そのためには、教員の資質向上のための研修会充実が求められている。
- ・学校だけでなく、幼児期など子供の成長段階で何ができるのか、また、卒業後に生涯にわたってスポーツに親しみ、健康に対する心が大事になるのではないか。
- ・少子化による集団スポーツができない学校が出てきている。

- ・部活動においては、競技人口の減少と競技力の低下が課題である。
  - ・働き方改革による、学校部活動の位置づけが曖昧、また、部活動が削減されている。他課の事業と連携していかないと、スポーツ人口の拡大も少なくなっていく、競技力向上の分野でも落ちていくのではないか。
  - ・スポーツ庁から出たガイドラインは出たばかりのため、今年度から、高校についてガイドラインを基に運用している。ガイドラインがなかなか守れない、教育委員会としては守らせなければいけない、非常に苦労している。競技人口を増やすなら、地域スポーツ課の総合型スポーツクラブとの連携、部活動を継続するなら競技団体と学校が連携していき地域ごとにやっていく必要がある。地域と学校が連携していくことが、生涯スポーツに繋がるのではないか。

(委員長)

- ・学校スポーツを他課にちりばめてもらって、学校のスポーツを盛り上げる。
- ・岐阜県の推進計画が、他県の見本になるものにしていきたい。
- ・障がい者スポーツについて、パラリンピック（競技スポーツ）と、誰でもできるスポーツと両方あるがどうお考えか。

(障がい者スポーツ係)

- ・障がい者スポーツの推進の中に、選手の育成強化が含まれている。健常者と障がい者を分けて現在は考えている。これからは、健常者と障がい者を分け隔てなく支援していきたい。競技スポーツの推進の中に障がい者スポーツの競技力向上も含め進めていきたい。
- ・パラリンピックは身体障がい者と知的障がい者の大会。知的障がい者は陸上、卓球、水泳しか競技がない。それ以外の障がい者の方はトップアスリートの対象になっていない。ただ、育成については、全ての障がい者を対象に行っている。
- ・デフリンピック＝聴覚障がい者の大会。約100名が出場している。競技力を高める支援が必要なのではないか。
- ・パラリンピックは約130名が出場している。
- ・スペシャルオリンピックス＝知的障がい者の大会。社会参加、自立促進を目的に行われているため、競技力向上として直接関わっていない。
- ・パラリンピックに入っていない競技種目、国際大会出場に向けて頑張っているチームなどあれば支援していきたい。
- ・健常者と障がい者が一緒になって参加できる、分け隔てなくスポーツを楽しみ、練習して勝つ喜びを味わうことができる大会があると、その人の人生が変わってくるのではないか。現在は、中部実業団陸上競技大会

や、ボートの大会もパラの種目を入れて開催されている。また、岐阜ス  
ープスのエキシビジョンで、車いすバスケットを、一般の人に見ても  
らう・知ってもらう機会を提供している。今後さらに増やしていきたい。

(障害福祉課)

- ・友愛アリーナをオープンし施設整備の充実はできてきた。
- ・障がいを持っている方は、外に出られない、スポーツに参加できない方  
が多いため、スポーツ教室の実施など機会を増やしていきたい。
- ・2020年東京パラリンピックを機会に、障がい者スポーツを知っても  
らう機会がふえればよい。
- ・共生社会の実現を目指して、地域スポーツ、競技スポーツで実施する大  
会に障がい者の方も参加できるような環境づくりを進めていただきたい。

(委員長)

- ・柱は6本ではなく、1つ減らしてでもそれぞれ充実させることが可能で  
はないか。

(施設管理係)

- ・高齢者が利用しやすい施設の実現目指す。
- ・多様性、女性、外国人の利用しやすい施設の実現目指す。

(委員長)

- ・現行計画の達成度・評価、課題、方針については、事務局に8月16日  
(金) 17:00までにご提出いただきますようお願いします。
- ・提出頂いた資料ならびに、ご意見につきましては、第2回策定部会にお  
いて検討します。また、議事録と合わせて公開されますことをご了承く  
ださい。

(以上)